
足フェチな俺と空想彼女

越川健人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

足フェチな俺と空想彼女

【Nコード】

N2638BA

【作者名】

越川健人

【あらすじ】

夢に出てくる美少女とそっくりの少女が、転校生としてやってきた。その少女は足フェチ少年に興味を持ち・・・

もし、見た夢が正夢だったら・・・？（前書き）

この物語には若干衝撃的なシーンがあります。
閲覧にはご注意ください。

もし、見た夢が正夢だったら・・・？

それは突然のことだった。雲ひとつない晴天。周りに何もなく、地平線が見える。ザザーンと音を立て、海水が押ししたり引いたりしている。浜辺にシートを広げ、楽しく2人きりで話していると、急に美久が俺の膝の上に両足を乗せた。

「ねえ、健人。私の足の匂い嗅いでみて・・・」

美久は両脚をもじもじしながら言った。

「嗅ぐの？」

あまりに突発的な要望に驚いてしまった。普通の人なら、ここで『嫌だよ』などと否定し、振り払うだろう。だが、なぜか俺は一切嫌がらず、気づくと美久が履いているサンダルを脱がし始めていた。美久の今日のコーデはTシャツとジーパンにサンダルという、シンプルな組み合わせだ。だが、大きめの胸、抜群のスタイルにピツタリで、申し分ないくらい似合っていた。

左のサンダルを脱がすと、美久は早く嗅いでと言うように、俺の顔に足を差し出した。長い脚。遠近法のせいもあるかもしれないが、モデルになっても良いくらいに綺麗だ。服の上からでも分かる。

俺は恐る恐る匂いを嗅いだ。だが、臭いはしなかった。素足を露出し、蒸れていなかったからだろう。

「別に、臭わないよ」

俺は出来るだけ明るく言った。美久は自分の足の臭いを気にしているからだと思っただからだ。美久が嬉しそうな顔をしたときに確信した。だが、その嬉しそうな顔は、俺が捉えた意味とは違った。

「本当！・・・じゃあ、舐めてくれる？」

またまた突発的な要望。いったい美久はどうしたんだ？前までこんな子じゃなかったのに・・・

ところが、嫌だとは言わなかった。ゆっくりと舌を出し、足の裏を・・・

空が白い。雲がない。そして低い。いや、空じゃない。部屋の天井だ。

「夢か・・・」

頭をボリボリ搔きながら呟いた。最近、同じような夢を見る。

俺、越川健人は中学3年目にして、女の子の足に興味を持つようになった。いわゆる足フェチだ。

きっかけは後輩の女の子2人が、学校の廊下を歩いていたことだ。ただ歩いていただけ。だが、1つだけ違うところがあった。1人は上履きを履いてなく、白いハイソックスで歩いていた。もう1人は靴下すら履いてなく、素足だった。その時は特に気にしなかったが、家に帰ってから。突然それを思い出し、何故か興奮してしまった。それからだ。興味を持つようになったのは。

そして、美久というスタイル抜群で可愛い女の子はこの世にいない。空想上の人物だ。空想の人物が、夢の中で俺に足を差し出してくる。現実だったならいいのに・・・いつもそう思ってしまう。

いつも通り学校へ行き、教室へ入る。すると、いつもとは違う騒がしさがあった。

「どうしたの？」

「一番近くにいた友達、連に聞いてみた。」

「転校生が来るんだって！しかも俺たちのクラスだぜ！？」

「マジか？」

転校生。一体どんな子なんだろう？男？女？なんだかわくわくしてきた。

「おい、ホームルーム始めるぞ。さっさと席つけー」

担任の教師、健二が入ってきて、生徒を席に着かせる。

「あー、みんなも知っていると思うが、転校生が来ることになった」

みんながざわつき始める。俺もそれに混じるように、前の席の高志に話しかけた。

「どんなやつだろうな？」

「さあ。美女であることを祈ろう」

俺も賛成だった。このクラスに、個人的に可愛いと思える女の子はいない。そろそろ、いても良いんじゃない？

「紹介しよう。入ってー」

健二が廊下に向かって言った。ドアが開き、転校生が入ってくる。女の子だ。そしてその顔に見覚えがあった。

「あれは・・・」

女の子は自己紹介を始めた。

「初めまして。宮野美久といいます」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2638ba/>

足フェチな俺と空想彼女

2012年1月6日19時46分発行